

多良の森トレイルランを 大村の地域資源に！

北村 貴寿 議員



4月23・24日に開催された第1回多良の森トレイルランニングは、大村の自然を生かした

大村ならではの大会である。エントリー400名中370名は市外、遠くは関東からの参加であり、285名の方に市内に宿泊していただいた。大会はボランティアで運営されており、継続開催に不安があるため、市も実行委員会に参画し、大村に人を集める地域資源として、育てるべきである。

A 多良の森トレイルランについては、大村市の自然を生かせるメニューだと考えており、大村市をアピールできるものに対しては、積極的に取り組みたいと考えている。人員配置の問題等をクリアできれば、次の大会は共催したいと考えている。



教育・文化・スポーツ

大村工業高等学校の 中高一貫校の実現を！

永尾 高宣 議員



大村市には、部活動において、全国レベルの実績を誇る大村工業高等学校がある。同校を

中高一貫校とすれば、中学から6年間にわたる部活動での育成強化、技術・技能の習得とあわせて幅広い資格取得や、国際感覚豊かな人材育成など、将来を見据えた教育ができる、日本一の学校に発展させることができる。同校を中高一貫校とすることを、県知事要望に盛り込むことはできないか。

A 大村工業高等学校は、国家資格の取得や技能大会等において、全国有数の成績を収めており、また、スポーツにおいてもさまざまな競技で日本一に輝くなど、本市の誇りとする学校である。このようなことから、さらなる人材育成を図るために、本年7月の県知事要望に、併設型の中高一貫校の設置を盛り込む。

教育行政について

村上 信行 議員



教職員の健康管理については、今年度から教職員数50人以上の学校に産業医を配置すること

となったが、50人未満の学校への配置も努力すべきである。また、クラブ活動や事務処理による長時間の超過勤務は、児童生徒と触れ合う時間が少なくなり、教育上好ましくない。先進都市では、民間団体にクラブ活動を委託し、専門的な指導が行われている。教職員の超過勤務縮減対策として検討すべきと思うがどうか。

A 教職員数が50人未満の学校への産業医の配置については、資格保有者の状況等については、資格保有者の状況等について医師会と協議し、費用面も勘案しながら検討したい。また、教職員の超過勤務縮減については、健康管理及び仕事と家庭の両立の観点から、学校現場と一体となった取り組みの推進や校務の効率化に引き続き努めるとともに、今年度からは長期休業期間中の学校閉庁日を新たに設ける。

子どもに対する 情報モラル教育推進都市へ

村崎 浩史 議員



スマートフォン注10の普及により、大村市内の子どもたちの中でも、LINEやTwitter

等でトラブルが発生している。LINE社はCSRとして、無償で生徒、教員、保護者向けに講師を派遣し、情報モラルに関する研修を行っている。この制度の活用を含め、情報モラル教育を推進するべきではないか。

A 情報モラル教育については、情報委員会としては、今後も民間業者のノウハウの積極的な活用に努めるとともに、学校における指導の充実や、PTAと連携した家庭の啓発活動を進める。また、市としては、CSRの取り組みの活用を前向きに進めるとともに、大人の意識を高めることも必要だと考えているため、家庭教育にもしっかりとアプローチしたい。

